

## 第1学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(水) 5校時  
 児 童 1年1組 10名  
 授業者 三浦 恵里佳

- 1 単元名 すきなところカードをつくって、つたえあおう  
 教材名 「たぬきの糸車」岸 なみ 作(「国語 一(下) ともだち」光村図書)

### 2 単元について

- ・本単元では、挿絵や本文をもとにして、場面の様子から登場人物の行動を捉える。登場人物の行動や様子について読み好きなどところを見つけ、カードに書いて伝えることができるようにしていきたい。
- ・これまでに「おおきなかぶ」の学習において、増えていく登場人物を確かめ、動きや会話を付け加えながら声をそろえて読む学習をしている。また「やくそく」の学習において、誰が何を言ったのかに気を付け、登場人物の会話と行動を自分の体験と結び付けながら、登場人物になりきって音読する学習をしている。「くじらぐも」の学習においては、吹き出しで登場人物の気持ちや会話を付け加え、場面の様子から想像したことを伝え合う学習をしている。児童は、話すことが好きで、進んで発言する姿が多く見られる。一方で、なかなか自分の考えをもつことのできない児童や、わけを話すことが難しい児童もいる。また、人の話を最後まで聞くことや、1回で理解することには課題が見られる児童もいる。
- ・授業者は、児童が登場人物の行動を具体的に想像できるように可視化や動作化を通した授業づくりを意識したい。可視化のための手立てとして、単元を通した振り返りシートを使って見通しをもって学習できるようにし、昔言葉をカードにして、写真や動画を照らし合わせることで、場面の雰囲気を感じとらせたい。登場人物の行動を動作化したり、役割演技させたりすることで、物語の面白さに気付かせたい。また、それぞれの対話場面で何を友達に伝えるのかを確かめることで、何を話せばよいのか、どのようなことに気を付けたらよいのか分かるコーディネートを目指していく。

### 3 単元の目標

[知識及び技能]	[思考力, 判断力, 表現力等]	「学びに向かう力, 人間性等」
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 (1) ク	①場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 C (1) エ  ②場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 C (1) イ	①言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

### 4 単元の「課題解決的な言語活動」

物語の好きなところとその理由をカードに書き、友達に伝える活動。(関連：言語活動例イ)

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1) ク	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ  ②「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 C (1) イ	①進んで場面の様子に着目し、学習の見通しをもって、好きなところカードをつくり、伝えようとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「すきなところカード」を見て、学習計画を設定し、単元の学習に見通しをもつ。</li> <li>○物語を読み、初発の感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すきなところカード」の教師のモデルを提示したり、「すきなところカード」を使って交流するよさを示したりすることで、学ぶ意欲を高める。</li> <li>・導入として、教科書を開く前に題名や最初の挿絵を示し、どんな所か、どんな人が出てくるかを話し合わせる。</li> <li>・感想を書きやすくするために、「すきなところ」の視点を与える。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の設定を捉える。</li> <li>○登場人物、大体の内容を捉える。</li> <li>○物語には、まとまりがあることを捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子を捉えるために、物語の設定（時・場所・登場人物）を確認する。</li> <li>・誰が何をしたのかを捉えるために、挿絵と照らし合わせながら、出来事を整理する。</li> <li>・整理した内容を踏まえ、物語にはまとまりがあることを押さえる。</li> </ul>	<p>【思・判・表②】</p> <p>物語の設定や、誰が何をしたのかなど、内容の大体を捉えているかの確認。 〔観察・発言〕</p>
3 ・ 4 ・ 5 （本時） ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おかみさんを見ながら、糸車を回すまねをするたぬきの様子について考える。</li> <li>○畏にかかり、おかみさんに助けてもらったたぬきの様子について考える。</li> <li>○たぬきが糸車を回す様子について考える。</li> <li>○ぴよんぴよこ踊りながら帰っていく様子について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たぬきが糸車を回すまねをしたときの様子を考えさせるために、動作化や役割演技を組み込む。</li> <li>・おかみさんがたぬきを逃がした理由を捉えさせるために、どこからそう考えたのか、叙述を指さすようにする。</li> <li>・たぬきはいつからおかみさんの家にいたのか、自分の考えをもつことができるように、選択肢を与える。</li> <li>・場面の様子を想像するために、「山のように」を動作化するよう指示する。</li> <li>・たぬきが踊りながら帰っていく理由を考えさせるために、「ぴよこん」「ぴよんぴよこ」の言葉を確認する。</li> </ul> <p>（3～6時共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子を具体的に想像するために、糸車の写真や動画を見たり、「昔言葉シート」を活用したりする。</li> <li>・たぬきがしたことを捉えるために、教科書にサイドラインを引くよう指示する。</li> <li>・考えをもつことが難しい場合には、挿絵を手がかりにして場面の様子を想像できるようにする。</li> <li>・登場人物の思いや行動の理由を想像するために、吹き出しがついたワークシートを活用する。</li> <li>・最後まで友達の話聞くことができるように、交流で対話カードを活用する。</li> </ul>	<p>【知・技①】</p> <p>糸車の回る音（擬音）や擬態語に着目し、声の大きさや速さを工夫しながら、音読をしているかの確認。 〔音読〕</p> <p>【思・判・表①】</p> <p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を想像して、ワークシートに記入しているかの確認。 〔ワークシート〕</p>
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の好きなところにシールを貼る。</li> <li>○「すきなところカード」を書く。</li> <li>○書いたカードを交流する。</li> <li>○単元のまとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなところとその理由を書きやすくするために、「楽しい」「おもしろい」「びっくり」「ふしぎ」の視点を示す。</li> <li>・選んだ好きなところの違いや、わけの違いに着目することで、活発な交流になるよう支援する。</li> <li>・カードに書いた内容や、カードの交流を想起させ、学習の内容を振り返る。</li> </ul>	<p>【学習に取り組む態度①】</p> <p>場面の様子や登場人物の行動についての学習を生かして、進んで好きなところカードをつくり、伝えようとしている。 〔発言・記述〕</p>

7 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

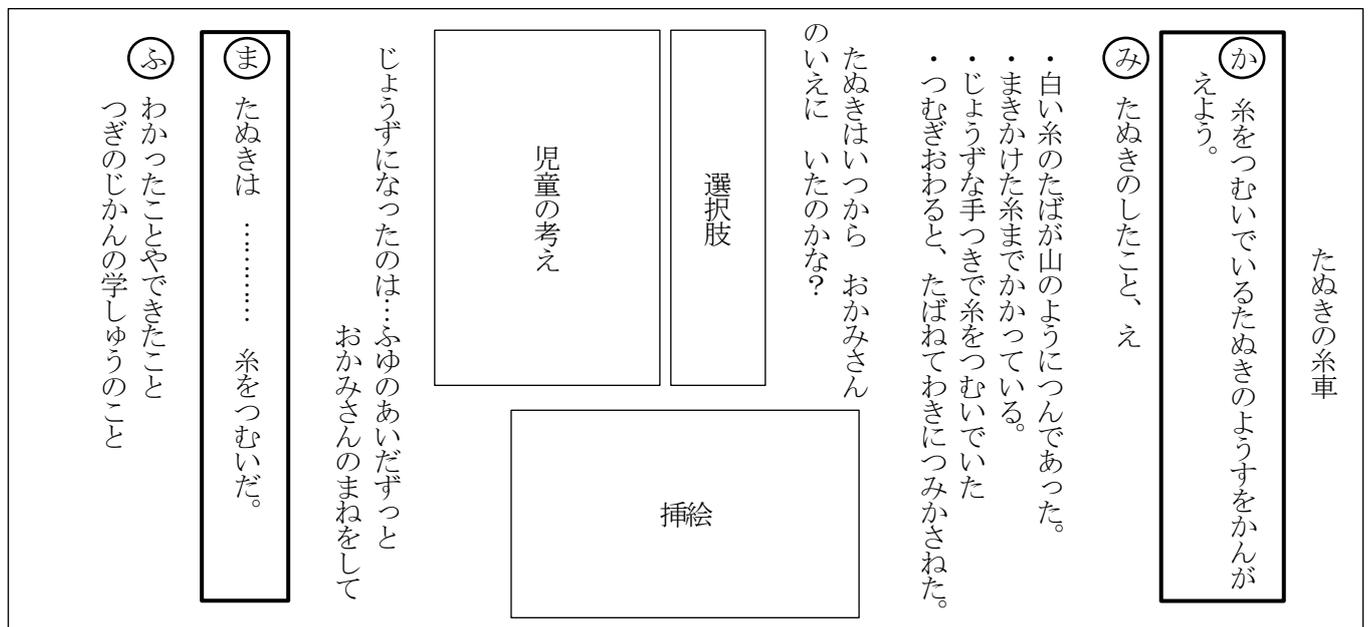
場面の様子に着目して、糸車を回しているたぬきの行動を具体的に想像することができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価
導入 10分	1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のワークシート記述から、前時の学習を振り返る。</li> <li>・学習計画表を見ながら、学習課題を立てる。</li> </ul>
	2 学習課題を把握する。	
糸をつむいでいるたぬきのようすをかながえよう。		
展開 25分	3 課題解決のための見通しをもつ。 (1) 行動や挿絵に着目して読んでいくことを確認する。  (2) 第4場面を音読する。  (3) たぬきのしたことに線を引く。 ・白い糸のたばが、山のようにつんであった。 ・まきかけた糸までかかっている。 ・じょうずな手つきで、糸をつむいでいた。 ・つむぎおわると、たばねてわきにつみかさねた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子を想像するためには、たぬきの行動や挿絵に着目して考えるとよさそうだ、という見通しを確かめる。</li> </ul> <p><b>【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】</b>            叙述をもとにして、一連のたぬきのしたことを確認する。その後、「たぬきは、いつからおかみさんの家にいたのだろうか」と問うことで本時の課題にせまる。</p>
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 (5分) ・考えをワークシートに書き込む。  (2) ペア学習 (2分) ・ワークシートを見せ合いながら、お互いの考えを交流する。  (3) 全体学習 ①発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを相手に示すために、考えとその理由をワークシートに記述させる。</li> </ul> <p><b>【視点2：考えを積み上げる対話】</b>            分かりやすく自分の考えを伝えられるように、友達にワークシートを見せながら話すことや、「どうしてかという」と使って話すことを確認する。最後まで友達の話聞くことができるように、対話カードを活用する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ずっと前からいたと思います。どうしてかという、糸車にほこりがかぶっていないからです。</p> <p>・ずっと前からいたと思います。どうしてかという、糸が山のようにつんであったからです。</p> <p>・ずっと前からいたと思います。どうしてかという、たぬきが糸をつむぐのが上手になっているからです。</p> </div> <p>②問いに対する考えを整理する。</p> <p><b>【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】</b>            「たぬきはどのように上手になったのだろうか」と発問を投げかける。冬の間ずっと糸をつむいでいたことや、おかみさんのまねをしていたから上手になったというたぬきの行動を捉えさせる。また、「キーカラカラ」の繰り返し表現にも着目することで、たぬきはおかみさんと同じ音を出せるくらい上手になったということにも気付かせたい。</p>

終末 10分	5 学習をまとめる。	・児童から出た考えをもとに、本時の学習をまとめる。
	6 振り返りをする。 ・分かったことやできたこと ・次時の学習に向けて 7 次時の確認をする。	<p>たぬきは、(冬の間ずっとおかみさんのまねをして) 糸をつむいだ。</p> <p>◇ 期間と人物に着目して、たぬきの行動を具体的に想像しているかの確認。 〔まとめの記述〕</p> <p>・単元の流れを見通せるように、振り返りシートを活用する。 ・振り返りを書きやすくするために、視点を与える。</p> <p>・次時は、踊りながら帰っていくたぬきの様子について考えることを知らせ、見通しをもたせる。</p>

## 8 板書計画



## 9 本時の授業改善の視点

### 【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

叙述をもとにして、「じょうずな手つきで糸をつむいでいた」「つむぎおわると、たばねてわきにつみかさねた」などの一連のたぬきのしたことを確認する。その後「たぬきはいつからおかみさんの家にいたのだろう」と投げかける。叙述を基にしながたぬきの行動を想像することで、本時の課題にせまる。

### 【視点2：考えを積み上げる対話】

分かりやすく自分の考えを伝えられるように、「どうしてか」というとを使ってわけを話すことを確認し、友達に自分の考えをしっかりと伝えることのできる対話を目指す。また、最後まで友達の話聞くことができるように、対話カードを活用する。友達考えに頷いたり、反応したりすることで、友達考えにも意識を向けられるようにしたい。授業者は、児童の考えをつなぎ、整理しながら板書することで、問いに対する考えへとつなげたい。

### 【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

「たぬきはどのように上手になったのだろう」と発問を投げかける。「山のように」を動作化させることで、1日で糸をつむいだのではなく、冬の間ずっと糸をつむいでいたことに気付かせる。また、おかみさんのまねをしたから上手になったという行動から、「キーカラカラ」の表現にも着目する。前の場面と同じ表現になっていることを確認することで、たぬきはおかみさんと同じ音を出せるくらい上手になったということにも気付かせたい。